

1. 団体名 認定こども園くすの木祇園

2. 今年度の活動概要

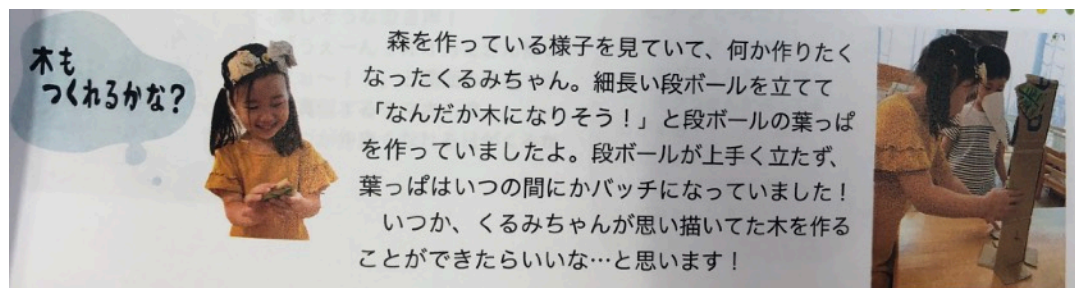
①環境構成に関すること

認定こども園くすの木祇園は、園舎の裏の道を少し登っていくと、武田山へ入る登山口があります。武田山登山口までの道には、地域の方が育てていらっしゃる野菜やお花が豊かに育っており、時折近所の方から野菜をおすそ分けしていただくこともあります。道中はそんな地域の方とのコミュニケーションも楽しみのひとつとなっています。

②遊びの事例や、子どもたちの育ちに関すること

お散歩コースには自然豊かな公園もいくつかあり、幼児さんになるとしたい遊びによって、みんなでどこに行こうか相談しながら決めています。遊びの中で使いたいものがあれば、それをとりに目的地を決めることもあります。子どもたちは、園舎周辺の遊び場の中で、どんなものがあるのかをよく知っていて、「こいのぼりの枝なら、武田山にあるんじゃない?」「じゃあさがしにいてみよう」と対話を繰り返して広がっていきます。

幼児クラス くまさんごっこ ～イメージとほんものを行き来しながら～



くまになりきる遊びをたのしむ4歳児さん。
くまの住む森を表現しようとしています。

最初はダンボールで。

もっと、本当の森にしていきたい。

そんな思いから、
木の枝がたくさんとれる遊び場へ行き、
枝をたくさんとってきました。



「これ、結婚式にいいんじゃない?!」

お散歩に行った際、はやとくんが木に長いツルがあるのを発見しました。引っ張り取ってみると…「結婚式に使える!」とひらめいた、はやとくん。前日に見た絵本「きりかぶ」の一場面を思い出したようで、結婚式の飾りに使えると思ったみたいです。早速くまさんごっこと一緒にすることが多い、はなちゃんに伝えます。「おお!それ良いねえ!!」と共感する、はなちゃん。2人で長いツルを何個か持って帰りました。

みて、さわって
そこから
ひらめきが
うまれることも。

幼児クラス ～魚への関心の高まり。図鑑では知れないものを求めて～

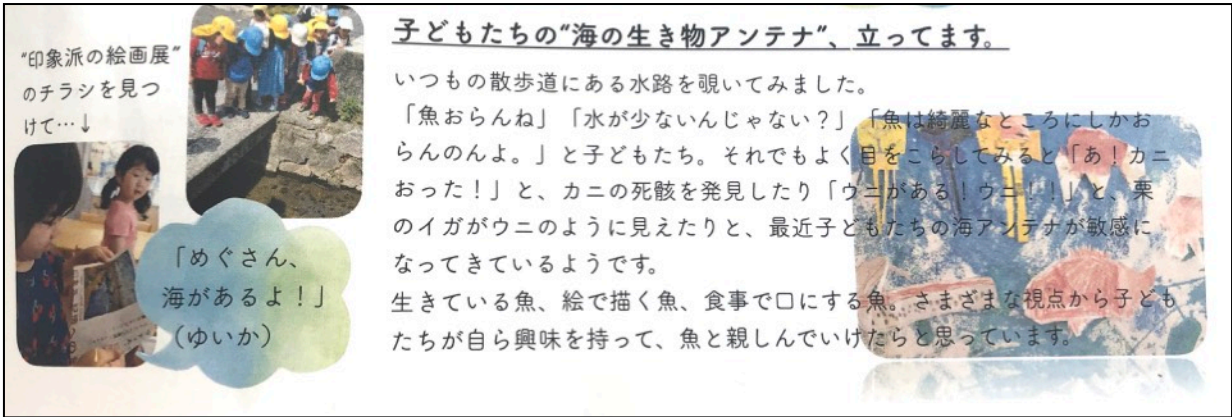


魚が大好きな友だちに影響され、
お部屋全体が、水辺の生き物への関心が
広がっていきました。

魚が住んでいるところは？

そうだ、川に行ってみよう。

“印象派の絵画展”
のチラシを見つけ…↓



「めぐさん、
海があるよ！」
(ゆいか)

子どもたちの“海の生き物アンテナ”、立っています。

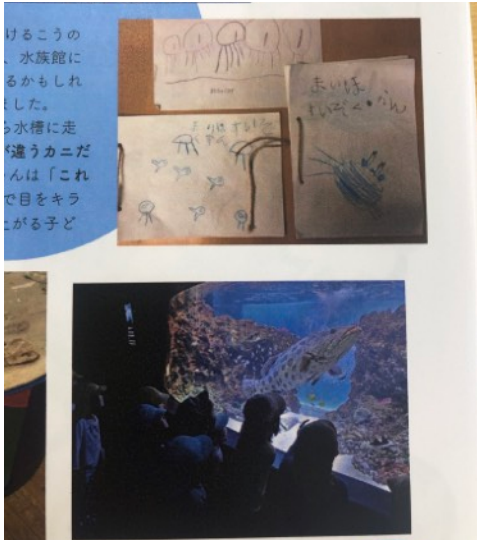
いつもの散歩道にある水路を覗いてみました。
「魚おらんね」「水が少ないんじゃない?」「魚は綺麗なところにしかおらんのかな」と子どもたち。それでもよく目をこらしてみると「あ!カニおった!」と、カニの死骸を発見したり「ウニがある!ウニ!!」と、栗のイガがウニのように見えたりと、最近子どもたちの海アンテナが敏感になってきているようです。
生きている魚、絵で描く魚、食事で口にする魚。さまざまな視点から子どもたちが自ら興味を持って、魚と親しんでいけたらと思っています。

水辺の生き物と触れたことで、魚の図鑑を見ながら、絵を描いたり、魚のしっぽをつけて、魚しっぽとり遊びをしたりと、魚への関心が高まっている様子が見られました。

魚への気持ちが高まり、お部屋のみんなでマリホ水族館へ出かけていきました。

共通の話題をもち
共通のイメージを誰かと共有する喜び。

そんな仲間と共に過ごす中で
自然と対話が生まれ
自己表現する喜びも
うまれていきました。

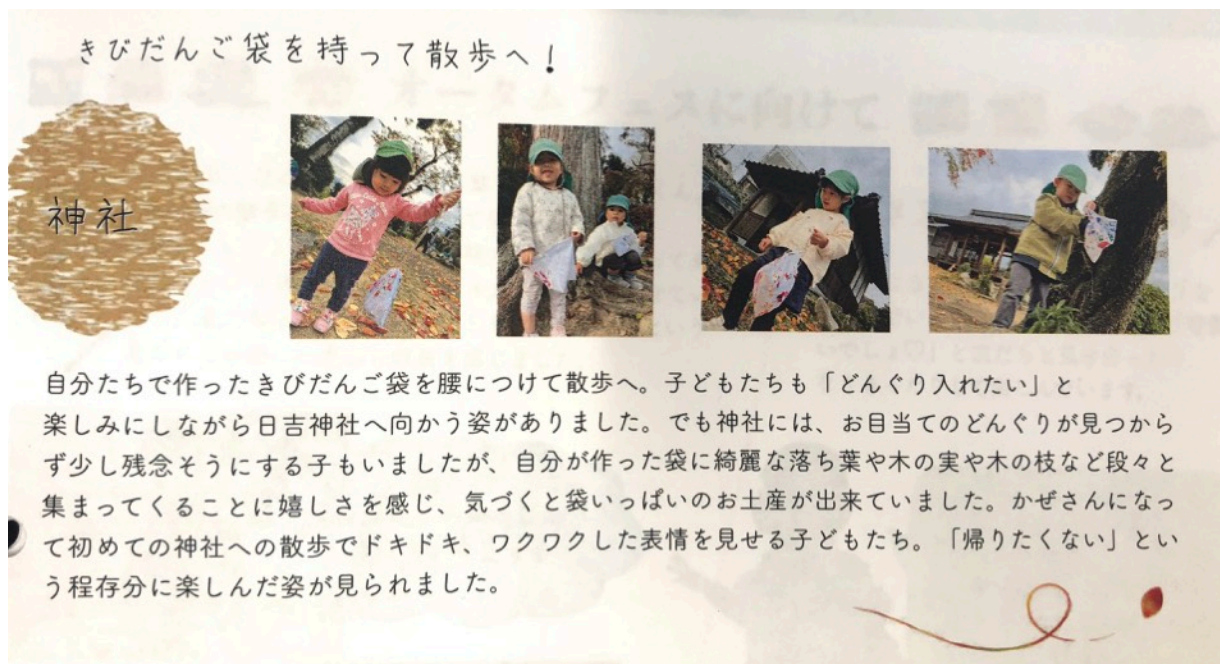


2歳児 ～ももたろうになりきる。きびだんご袋に自分の特別をつめこんで～

ももたろうの世界を楽しむ2歳児さんのお部屋では、きびだんご袋の製作を楽しみました。まずは、おやつのおだんごを入れて、お外で食べることを楽しみました。

その後、きびだんご袋を持ってお出かけする楽しさを感じた子どもたち、おさんぽでもきびだんご袋をもって出かけるようになりました。

きびだんご袋の中は、枝や葉っぱ、木の実など、その子にとって光り輝く特別なもので、いっぱいになりました。



豊かな自然物は
子どもたちのこころも満たし
子どもたちの目に映り
手にとることで
世界中でたったひとつのたからものに。

乳児・幼児クラス ～自分ではない人へ気持ちを向けよう

異年齢で過ごす幼児クラスでは、自分よりも年下の友だちへの気配りも見られます。

園舎の近くにある武田山へみんなで登りに行ったときには、滑りやすい枯葉の上を進むこともあります。

歩いてみて、どんな道なのか、どうやって歩くといいのかを子どもたちひとりひとりが工夫しながら登っていきます。

そしてそこで得た経験を、自分ではない誰かへ手渡し、助けようとする姿が見られるように。

体を支えることで、自分とは違う体格差、身体能力に気がつくこともあるのではと思います。



0歳児

触れるもの全てが刺激的。
大好きな大人の人と一緒に見つけたものは、もっと特別なものとして目に映っていることと思います。

大好きな大人の人と一緒に、みて、さわって。そして少しずつ、新しい世界を広げていきました。

1歳児

お月様を発見した1歳児さん。天気の良い日にお散歩にでかけると、そんな不思議な発見をすることも。きれいな指差しをお月様に向けて、大人の人や友だちに伝えてくれました。

自分ではない誰かと、発見や喜びを分かち合いたいという思いが育っています。



③その他、自然体験活動の実施にあたって

子どもたちの遊びの中に、自然体験が加わることで、子どもたちの知的好奇心も高まり、豊かな遊びの展開へ繋がっていったように思います。それは、自然が持つ、『場所に合わせて自在に姿形、生き方を変えていく』という力を、さまざまな形で子どもたちが素直に受け取ってくれたからではないかと感じます。本物（命あるもの）がもつ力は、子どもたちのところにまっすぐに届けてくれるのだと思います。

子どもたちもちろん、大人も自然の中で心をたくさん動かし、子どもたちの活動が豊かに展開していけるよう、スタッフ同士で共有し合いながら、過ごしていきたいと思います。

（記：副主任 山下 礼）